

1 単元名 話そう、※年生のわたし

2 単元の目標

- (1) 姿勢や口形、発声や発音に注意して話することができる。(知識及び技能)
- (2) 「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 進んで大事なところが伝わるように練習し、学習の見通しを持って皆の前で話そうとしている。(学びに向かう力、人間性等)

3 単元について

(1) 児童観

本学級には、7名の児童が在籍している。本時は、(A児・B児)で実施する。

(2) 教材観

本単元の重点指導事項は、学習指導要領における〔思考力、判断力、表現力等〕の「A 話すこと・聞くこと」(1)ウ「伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。」である。児童たちはこれまで、場の広さや相手との距離に合った声の大きさについて気を付けて話すことを学習してきた。本単元では、自分の心に残っている出来事をみんなに伝えるために、大事なところが伝わるような話し方を工夫することをねらいとしている。ひとまとまりの話の中で大事なところはどこかを考え、声の大きさや話す速さを変えて話すことができるようにすることをねらいとしている。また、話をする際には〔知識及び技能〕の(1)イ「姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。」を意識させ、聞き手に届くような話をするための基礎的な力を養うのに適した教材である。

(3) 指導観

指導に当たっては、話す題材をなかなか決められなかったり、短い言葉しか出てこなかったりすることが予想されるため、※年生になってからこれまでにどんなことがあったのかを、例を挙げて具体的に想起させ、本単元への意欲を高める。また、国語の授業に1分間スピーチを取り入れ、「したこと」と「その時の気持ち」を表す文章を書いたり発表したりして、話す活動を経験させている。本単元の学習においては、伝えたい大事なところはどこか、それをどんな声でどんな速さで話しか工夫したり、自分の姿を撮影した動画を見返したりして、自分の話し方が聞き手に届くような話し方になっているのかを客観的に捉えて改善する意欲を高め、話す活動を充実させたい。さらに、自立活動5-(1)「姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること」や6-(2)「言語の受容と表出に関すること」の観点と関連するため、合わせて指導を行う。少人数で学習する環境を生かして、安心した気持ちで「伝えられた」という成功体験を積み重ね、自己肯定感を高めたい。児童が友達の前で話す機会は、他教科の学習や学級活動等の様々な場面にあり、本単元の学習でそれらの場面に生きて働く力を育てていきたい。

タブレットで、教師が児童の話す姿や、話を聞いている姿を撮影し、単元の振り返り場面でみんなで視聴することにより、自分自身の姿勢や声の大きさ、聞こえ具合を客観的に確認できるようにする。振り返りを充実させることにより、普段からよりよい姿勢や話し方をしようとする意欲を高めたい。これらの学習は、※年(下)「※※※」の単元で学習する際にも活用できる。本単元の振り返りを充実させ、話す時の心得のように、児童の意識に残るように展開を進めたい。

4 児童の実態と個別目標

	単元における児童の実態	個別の指導計画・短期目標
A児	- 基礎的な理解力が高いが、A D H Dで 気が散りやすく、眠気や姿勢の乱れ、学習意欲の著しい低下が見られる。 - 口元の歪みがあり、発音が不明瞭なことがある。	10分程度、課題に集中して取り組むことができる。 - よい姿勢や正しい口形を保持することができる。 - 正しい発音で音読することができる。 - 自分の気持ちを言葉や文字で表すことができる。
B児	- アスペルガー・多動傾向で気が散りやすく、すぐに手遊びを始める。話を聞くことは苦手だが、話すことは得意で、自分の意見を主張できる。 - 思い通りにならないと癇癪を起こしやすい。	10分程度、課題に集中して取り組むことができる。 - よい姿勢を保ち、正しい字形の文字を書くことができる。 - 友達の発表や教師の話を最後まで聞くことができる。 - 感情のコントロールができる。

5 指導計画と評価（5時間扱い）

第1次 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しをもつ。．．．．．1時間

第2次 話すことを決めて、みんなの前で話す練習をする。．．．．．2時間

第3次 みんなの前で話す。．．．．．1時間

時 本時	主な学習内容・活動	評価規準（評価方法）	
		A児	B児
1	○だいじなところが伝わるように話をしよう。	- 姿勢や口形、発声や発音に注意して話することができる。 〈知・技〉（行動観察） - 大事なところが伝わるように声の大きさや速さを工夫している。 〈思・判・表〉（行動観察）	- よい姿勢を保持して話したり、聞いたりすることができる。 〈知・技〉（行動観察） - 大事なところが伝わるように声の大きさや速さを工夫している。 〈思・判・表〉（行動観察）

第4次 単元を振り返る。．．．．．1時間

6 本時の学習

(1) 全体目標

○大事なところが伝わるように声の大きさや速さを工夫して話することができる。

(2) 個別目標

A児：姿勢や口形、発声や発音に注意して話することができる。

大事なところが伝わるように声の大きさや速さを工夫して話することができる。

B児：よい姿勢の保持ができる。

大事なところが伝わるように声の大きさや速さを工夫して話することができる。

(3) 準備・資料

①教科書 ②タブレット ③姿勢カード ④タイムタイマー ⑤声のものさしカード

(4) 展開

⑥は評価

学習内容・活動	教師の指導・支援と評価		
	全体	A児	B児
1 授業開始のあいさつをする。	- 姿勢カードを提示する。 - 姿勢がよい児童を称賛し、児童と一緒に「よい姿勢の合い言葉」を言う。	- 身体の向きを教師に向けるよう声をかける。 - よい姿勢であいさつができたなら称賛し、学習意欲を高める。	- 大きい声で号令をかけるように伝える。 - よいあいさつやよい姿勢が保持できたら称賛し、学習意欲を高める。
2 めあてと学習の流れを確認し、本時の見通しをもたせる。	- 見通しをもって取り組めるように本時の活動の流れを黒板に提示する。 - 話す時の「工夫」を具体的な言葉で表現して板書し、意識させる。	- 活動に興味がもてるようにめあてを声に出して読む。 - 姿勢が崩れたり手遊びを始めたとき、質問に答えようとしなときは、名前を呼んで、めあてに注意を向けさせる。 - 集中力を持続するために、あえて席を立つ機会を与える。	- 活動に興味がもてるようにめあてを声に出して読む。 - 一方的に発言するとき、は、「挙手して名前を呼ばれたら話す」という学習の約束を思い出させる。 - 立ち歩いたり、黒板に字を書いたりする動作を取り入れ、気分をリフレッシュしたり集中力を持続させたりする。
みんなの前で話をしよう。 「工夫点」 - 大事なところはゆっくり話す。 - よい姿勢で相手を見て話す。 - よく聞こえる声の大ききさで話す。など。	児童たちの集中力を保つため、意図的に席を離れて立ち歩かせ、黒板に「工夫点」を書かせる。	集中力を持続するために、あえて席を立つ機会を与える。	立ち歩いたり、黒板に字を書いたりする動作を取り入れ、気分をリフレッシュしたり集中力を持続させたりする。
3 みんなの前で話す。	タブレットで動画を撮影することを伝え、話す前後のあいさつや姿勢、聞き取りやすさにも気を付けるよう促す。	⑥姿勢や口形、発声や発音に注意して話することができる。 〈知・技〉（行動観察） ⑥大事なところが伝わるように声の大きさや速さを工夫して話している。 〈思・判・表〉（行動観察） 具体的によかったところを称賛し、自己肯定感を高めるよう支援する。	⑥話すときや聞くときにより姿勢を保持することができる。 〈知・技〉（行動観察） ⑥大事なところが伝わるように声の大きさや速さを工夫して話することができる。 〈思・判・表〉（行動観察） 具体的によかったところを称賛し、自己肯定感を高めるよう支援する。

学習内容・活動	教師の指導・支援と評価		
	全体	A児	B児
4 学習の振り返りと授業終了のあいさつをする。	・ 友達のよいところを必ず1つは見つけるように伝え、注意して話を聞くように励ます。 ・ 友達の話を聞いて、特によかったところを伝え合うように促す。 ・ 話が出来たことと、友達のよさを伝えられたことを称賛し、自信をもたせる。 ・ 次時は動画を視聴することを伝え、学習意欲と見通しを持たせる。 ・ よい姿勢であいさつをするよう促す。	・ 「姿勢」「声」「顔の表情」など、注目する点を具体的に示し、注意を向けやすくなるよう支援する。 ・ 友達のよさや自分のよさを見いだせない時は「○○なところはどうでしたか？」等、具体的な点を伝えて考えるよう促す。 ・ 満足感や自信をもつことができるように、最後まで頑張ったことを称賛し、次時の学習への意欲を高める。 ・ よい姿勢であいさつができたなら称賛する。	・ 「姿勢」「声」「顔の表情」など、注目する点を具体的に示し、注意を向けやすくなるよう支援する。 ・ 友達のよさを認められることはB児のすばらしい長所だと伝え、生活の中でも良好なコミュニケーションを図れるよう励ます。 ・ 満足感や自信をもつことができるように、最後まで頑張ったことを称賛し、次時の学習への意欲を高める。 ・ よい姿勢であいさつができたなら称賛する。